

未来の宝物を育てよう..!

●第37回全国育樹祭!

今日は熊谷ドームを会場として「第37回全国育樹祭・式典」が行われました。私も、関係者の一人として参加させていただきました。今朝の埼玉新聞に関連記事がありましたので、こちらから..。

＊

◆全国育樹祭で皇太子さま、昭和天皇植樹の木お手入れ/寄居 【埼玉新聞/11月17日】

「育てよう みどりは未来の たからもの」をスローガンにした「第37回全国育樹祭」(国土緑化推進機構と県の共催)が16日始まり、皇太子さまが寄居町の金尾山県有林を訪れ、1959(昭和34)年に昭和天皇と香淳皇后両陛下が「第10回全国植樹祭」で植えられたヒノキを「お手入れ」した。全国育樹祭は17日、熊谷市のくまがやドームで式典がある。【写真①】

①:クワで「お手入れ」される皇太子さま

全国育樹祭が県内で開催されるのは初めて。森林の多様な恵みに感謝し、継続して緑を守り、育てる大切さを知ってもらおうのが狙い。77(同52)年から毎年秋、全国植樹祭の開催地の持ち回りで実施されている。

皇太子さまは金尾山県有林で上田清司知事、山崎正昭大会会長(参院議長)、県議会の細田徳治議長、寄居町の島田誠町長らにお出迎えされ、お手入れ会場へ。59年に両陛下が植えられたヒノキの苗木は高さ16メートル、直径30センチにまで成長。皇太子さまは当時の様子を写真パネルでご覧になりながら、根元に土壌改良材を与え、クワでならされた。

皇太子さまは会場で、59年の全国植樹祭に参加した寄居町鉢形の矢部伸昭さん(65)＝当時寄居町立鉢形小学校6年＝と、熊谷市榎春の小野田君江さん(67)＝当時寄居町立男衾中学校2年＝に、「当時はどうでしたか」などと、お声掛けした。

小野田さんは「植樹祭と育樹祭の両方に参加できて光栄です」と答えた。お手入れの介添えをした地元の「緑の少年団」の子供たちにも「活動は楽しいですか」などと、お声掛けした。お手入れ後、寄居町役場に立ち寄りされた。

上田知事は「昭和天皇、皇后両陛下がお手植えされたヒノキに、お孫さんに当たる皇太子さまがお手入れされ、感激しました。県が取り組んでいるみどりと川の再生にも弾みがつく」と述べた。

約5千人が参加する17日の式典では、県の緑に対する事業などをPR。日比谷公園や大宮公園などの設計を手掛けた日本初の林学博士・本多静六翁(久喜市出身)の功績について、川越市出身の俳優市村正親さんが紹介する。「緑の少年団」の活動発表なども行われる。

来年の全国育樹祭は山形県で開催される。

＊

そうなのです。私は出席者5000人の一人として会場に出席させていただき、遠くから式典の状況を拝見させていただきました。オープニング・アトラクションは「熊谷木遣とうちわ祭り祇園囃子」。軽快な祇園囃子に乗って、蔦梯子登り演技を楽しませていただきました【写真②】。

皇太子さま【写真③:オー



ロラビジョンより撮影]をお迎えした式典では、緑化功

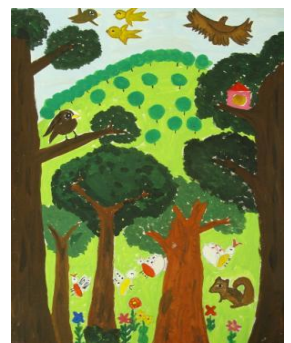


労者の表彰が行われ、埼玉県からは「嵐山モウモウ緑の少年団」がみどりの奨励賞(全国育樹祭大会会長賞)に、「寄居町観光協会金尾支部」が全国育樹活動コンクール(農林水産大臣賞)

に、「長瀨町」がふれあいの森林づくり優良市町村等(国土緑化推進機構会長賞)に輝きました。さらに、埼玉県緑化等功労者として個人57人、団体14団体の中に、8年目を迎えた「埼玉県立浦和高等学校同窓会」も選ばれていました。「さいたま環境賞」「本多静六賞」(以上、埼玉県)、「ふれあいの林づくり理事長賞」(国土緑化推進機構)に続いての受賞で、森づくりの先駆けとして嬉しいことです。

メインテーマアトラクションでは、市村正親さんの語りによる本多静六博士の物語をベースにおいた「日本の森林(もり)を育てた人」からは、ジーンとくるものがありました。今回の大会ポスター【写真④】には、春日部市武里西小学校4年生の本間梨央さんが選ばれ、ご両親と一緒に式典に参加されていました。

最後は全国の「緑の少年団」の皆さんの活動発表、とても感動的でした。まさに「育てよう みどりは未来の たからもの」ですね。



さあ、23日は「百年の森づくり」です。(o)!